

令和3年度
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
《令和2年度実施事業》



天草市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することとなっています。

本報告書は、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、令和2年度の本市教育委員会の所管事務について、点検及び評価を行い、学識経験者の意見を付して報告するものです。

<参 考>

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成27年4月1日改正）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検及び評価に関する要領	1 P
1	趣 旨	
2	点検評価の対象	
3	点検評価の方法	
4	点検評価員の委嘱	
5	点検評価の手順	
6	点検評価調書の作成	
II	教育委員会の活動状況について	4 P
1	教育委員会会議	
2	教育委員の主な活動	
3	附属機関の状況	
4	教育委員会の情報発信	
III	外部点検評価	7 P
1	点検評価員	
2	会議	
3	点検評価員の主な意見	
IV	点検評価調書	
1	令和2年度点検評価事業一覧	14 P
2	点検評価調書	16 P

I 点検及び評価に関する要領

1 趣 旨

この報告書は、令和2年度における天草市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条第1項の規定に基づき、点検及び評価を行う。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、地教行法第21条に「教育委員会の職務権限」として規定されている事務のうち、「第2次天草市総合計画」や「第2次天草市教育振興基本計画」を推進するため取り組んだ主な事業を対象として実施する。

3 点検評価の方法

(1) 内部評価

対象とした施策ごとの主な事業について、その目的、令和2年度の実績内容等を示し、その結果を踏まえて、所管課としての評価及び課題、今後の方向性を記載する。

(2) 外部評価

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々の意見を聴取する機会を設ける。

4 点検評価員の委嘱

(1) 点検評価員の法的根拠 地教行法第26条第2項

(2) 点検評価員の数 2人

(3) 資格 教育に関し学識経験を有する方で、性別・年齢は問わない。

(4) 任期 2年（再任を妨げない）

(5) 報酬等 報酬・費用弁償については、天草市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の規定による。

5 点検評価の手順

点検評価は、次の順により行う。

(1) 内部評価

事務局各課がその所管する事務事業等について、評価を行う。

(2) 外部評価

上記(1)の内部評価の結果をもとに、点検評価員の意見を聴取する。

(3) 最終評価

上記(1)及び(2)の外部評価の結果を踏まえ、教育委員会が最終的な評価を行う。

(4) 議会への報告

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を市議会に提出する。

(5) 公表

教育委員会は、「点検及び評価報告書」を教育委員会ホームページに掲載し市民に公表する。

6 点検評価調書の作成

(1) 「事業名」欄

令和2年度に実施した事務事業名を記載する。

(2) 「第2次総合計画施策体系区分」欄

事務事業の上位施策となる第2次総合計画における施策を記載する。

(3) 「政策（基本方針）」欄及び「施策計画」欄

「第2次天草市教育振興基本計画」の「政策（基本方針）及び施策計画」を記載する。

(4) 「目的・内容」欄

実施した事務事業の目的及び内容を記載する。

(5) 「取組実績」欄

令和2年度における取組実績について記載する。

(6) その他

令和2年度の「決算額」、評価の「指標名」及びその指標の「目標値」・「実績値」を記載する。

(7) 「評価」欄

ア 評価項目

評価は、次の項目について行う。

(ア)「成果・自己評価」欄

令和2年度に実施した事業について、成果及び自己評価を行う。

(イ)「課題」欄

令和2年度に実施した事業における課題を記載する。

(ウ)「方向性」欄

成果・自己評価及び課題に基づき、今後の方向性を具体的に記載する。

イ 評点

評価は、次の評点により行う。

(ア)「上位の施策(目標)への貢献」欄

4:大いに貢献できた 3:貢献できた

2:少し貢献できなかった 1:ほとんど貢献できなかった

(イ)「市関与の必要性」欄

4:関与の必要性が高い 3:関与の必要性がやや高い

2:関与の必要性はやや低い 1:関与の必要性は低い

(ウ)「達成状況」欄

4:達成できた 3:だいたい達成できた

2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった

(8) 総合評価(方向性)欄

上記(7)の評価を踏まえ、総合的な評価を行い、今後の取組みの方向性について、次の区分により記載する。

ア 廃止:令和2年度で事務事業を廃止する。

イ 終了:設定した終期の到来又は事業目的の達成により事務事業を終了する。

ウ 縮小:事業内容、事業量等を縮小して事務事業を継続する。

エ 見直して継続:他の事務事業との統合や内容を見直して継続する、又は新たに終期を設定して継続する。

オ 継続:現行の内容で事務事業を継続する。

カ 拡充:事業内容、事業量等を現行よりも拡充して事務事業を継続する。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員選任状況

《委員名簿》

令和3年3月31日現在

役職名	氏名	任期
教育長	石井 二三男	H30.7.1～R3.6.30
委員（教育長職務代理者）	黒鶴 進治	H29.7.1～R3.6.30
委員	行合 八恵子	H28.7.1～R2.6.30
委員	木下 えり子	R2.7.1～R6.6.30
委員	吉森 啓司	R1.7.1～R5.6.30
委員	岩崎 あゆみ	R2.7.1～R6.6.30

※教育長の任期は3年 ※委員の任期は4年

2 教育委員会会議

会議は原則公開で行い、毎月1回の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催し、教育行政の実施に関する事項等の審議を行います。令和2年度においては、定例会を12回、臨時会を4回開催し、議案50件の審議、協議報告39件について審議しました。

市民への積極的な情報提供を行うため、会議を傍聴できることや、会議の日時、場所、教育委員会定例会及び臨時会の会議録のホームページへの掲載などを引き続き行います。

3 教育委員の主な活動状況

(1) 学校訪問

市内の幼稚園や小・中学校を訪問し、教育課程、学習指導、生徒指導その他専門的事項について指導・助言等を行うとともに、その学校の取組みや抱えている課題の把

握に努めました。これに、教育委員も参加し、校長との意見交換や授業・施設の視察等を行いました。

《学校訪問の状況》

区 分	対 象	期 日	出席状況
幼稚園訪問	3園	令和3年1月20日～令和3年1月25日	延べ16人
小学校訪問	17校	令和2年10月9日～令和2年11月27日	延べ8人
中学校訪問	13校	令和2年10月13日～令和2年11月27日	延べ8人

(2) 研修会への参加

教育委員会では、教育委員会関係団体の行事や研修会に参加し、情報交換や研さんに努めています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定されていた全ての研修会が中止となりました。

(3) その他の主な会議や行事

会議・行事名等	期 日	出席状況
入学式・入園式	令和2年4月	延べ12人
研究発表会（小中学校研究指定校6回）		延べ11人
退職者感謝状贈呈式	令和3年2月24日	5人
卒業式・卒園式	令和3年3月	延べ13人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した会議や行事を除いています。

3 附属機関の状況

政策等を立案するに当たり、専門的な判断を要する事案等について、各関係者の意見を広く聴取し、様々な角度から議論を行うため、附属機関を設置しています。審議会等の開催状況は次のとおりです。

審議会等の名称	開催回数	主な審議案件
天草市奨学生選考委員会	1回	奨学生の選考
天草市就学指導委員会	2回	心身に障害のある児童及び生徒に対する就学指導及び教育に関すること
天草市いじめ防止対策審議会	3回	本市のいじめ問題に係る現状報告、いじめ事案に関する審議
天草市いじめ問題対策連絡協議会	1回	本市のいじめ問題に係る現状報告 いじめ問題に係る情報交換・意見交換
天草市立学校給食センター運営委員会（各センターに設置）	各2回	給食費の決定、給食日数、納入業者の承認、管理運営
天草市社会教育委員会議	1回	事業報告、事業計画、生涯学習推進指針、複合施設の建設
天草市立図書館協議会	1回	事業報告、事業計画、複合施設の建設

4 教育委員会の情報発信

教育に関する制度や手続等の周知を図るとともに、教育委員会の取組みに関心を持っていただくため、教育の現状及び課題、施策等についてホームページにおいて市民へ情報を提供しています。

Ⅲ 外部点検評価

1 点検評価員 (50音順・敬称略)

氏 名	所 属 等
望月 信幸	熊本県立大学総合管理学部教授
松本 由香里	元 天草市教育委員

2 会 議

- ・ 第1回点検評価員会議 令和3年7月9日(金) 天草市役所 庁議室
- ・ 第2回点検評価員会議 令和3年8月6日(金) 天草市役所 第三会議室

3 点検評価員の主な意見

教育総務課所管事業

〈離島高校生修学支援補助金〉

各補助金について、補助対象者への周知を引き続き徹底していただきたい。

〈姉妹都市教育交流事業〉

新型コロナウイルスの影響で派遣事業等は中止になっているが、ICT等を活用し、継続的に交流を繋ぎとめていくことが大切である。

〈小学校施設大規模改造事業〉〈中学校施設大規模改造事業〉

設備の修繕・改修には多額の予算が必要となるため、今後も計画的に事業を行っていただきたい。

学校教育課所管事業

〈学習指導補助事業〉

学校からの要望の全てを反映することは難しいと思うが、困り感のある児童生徒だけではなく、身体障害や発達障害に伴う補助・介助が必要な場合もある。要望に基づき、緊急性や重要性を考慮した上で、学校運営や学級運営がスムーズに行えるよう配置をお願いしたい。

〈読書活動支援事業〉

在宅時間が増え、読書の時間が増えたと感じる。司書の配置数に限りはあるが、司書のなり手育成を含め、専門知識を有する者を配置できない時にカバーする方法を考える必要がある。引き続き児童生徒の読書活動の充実を図っていただきたい。

〈外国語科推進事業〉

受験率の目標値にとらわれず、チャレンジさせることが大切なのではないか。英語は能

力を身につけることも大事だが、まずは子どもたちが学ぶことを「楽しい、面白い」と感じられるようにする工夫が必要である。また、天草に合った指導方法を検討してみてもどうか。

《グローバル人材育成事業》

事業の目的は、英語に関心を持たせるいい機会になるが、京都大学からの訪問が出来なかったことを理由に事業が実施されないことはもったいないと感じる。ICT等を活用し、リモートで交流し、英語に触れる機会を積極的に設けていただきたい。次年度も実施できないということはないようお願いしたい。

《総合的な学習活動支援事業》

コロナ禍で計画通りの現地視察が出来なかった場合も、臨機応変にインターネット等を活用した内容で対応されている。今後も実際に天草の文化等に現地で触れる機会を設けながら、事業を実施していただきたい。

《心の教室相談事業》

学校規模により、心のケアが必要である児童生徒数も異なる。各学校1名ずつの配置を学校規模や相談件数に応じて増やすことも検討してはどうか。児童生徒から受けた相談内容は、しっかり情報共有し、問題解決につなげていただきたい。

《適応指導教室設置事業》

目標値を設定することは難しいが、年度内の復帰を目標とせず、本人の意思で学校へ復帰できるようサポートをお願いしたい。学力不振が理由で通級する生徒に関しても、マンツーマンで指導することで自信が付き、復帰につながることもある。様々なケースがあると思うが、柔軟に対応してサポートし、学ぶ場所を確保していくことが大切だと考える。

《天草市特別支援教育総合推進事業》

相談できる場所や機会の周知徹底をしていただきたい。SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）と調整しながら、意見交流や情報共有を行い、総合的な支援体制を整えることが必要である。

《教育相談事業》

未就学児は早い段階でのケアが大切だと考える。相談したい保護者が機会を確保できるよう事業の計画や実施方法の検討をお願いしたい。

《市指定教育研究推進校補助金》

新学習指導要領ではICTをどのように活用して考えていくかが求められている。子どもたちが自分なりに考えてイメージを膨らませることを学ぶことが大切である。教職員はその部分をどう引き出していくか、事業を通して確かな学力を身に着けるためのアプローチ方法を工夫・研究しなくてはならないと考える。

《コミュニティスクールの推進に向けた取組み》

昔から地域とともに学校があるが、課題のとおり、設置完了後は横のつながりをより広げていかなければならない。いかに情報の共有ができるか、合同で行動するかなど、全体を良くしていくような取組みを行うことが必要になる。

《小中学校ICT整備事業》

ICTを導入することで、コミュニケーションや、サイトの閲覧等の問題が出てくる。どういう方法で早期に発見・フォローするか、教職員の気付く力が必要になると思われる。今までとは違った視点が大切である。また、タブレット端末等は固定資産となるので、更新時期を把握し、計画的に更新していただきたい。

生涯学習課所管事業

《成人式》

新型コロナウイルスの影響で実施できなかったことは致し方ないが、今後の成人式のあり方を検討する良い機会である。何のために成人式を行うのか、成人を集めて式典を行うだけの形ばかりのセレモニーになっていないか、開催できなかったときに何をすべきなのかを考える必要がある。開催の有無についても、実際の成人式の参加対象者に意見を聴取してはどうか。若者が何を求めているのかを把握することが大切である。参加したいと思わせる魅力ある成人式を計画していただきたい。

《移動図書館事業》

コロナ禍で、自宅で過ごす時間が増えており、需要が高い事業である。ぜひ今後も継続していただきたい。通常の図書館同様、移動図書館でも貸出予約ができる等、利用の促進につながる制度の周知が必要であり、インターネット等を利用するなど、周知方法をどう拡充させるかを検討していただきたい。

《読書活動推進事業》

複合施設ここらすの開館に伴い、図書館の新規登録者や中高生の利用が増えるなど、新しい利用者の掘り起こしが出来ている。リピーターを確保し、読書活動を伸ばすための工夫を行っていただきたい。利用者の需要を把握し、利用者からの相談業務を充実させることで、より利用者も増えるのではないかな。

《生涯学習推進事業》

様々な方が学習の機会を求めているが、時間が合わず学ぶことができない、参加できないということがある。より多くの市民に学習機会を提供するため、講座の開催時間を多様化するなどの方法を考える必要がある。

《青少年健全育成事業》

補助金制度を多くの市民に周知し、活用してもらえるよう事業内容の周知方法を工夫していただきたい。コロナ禍でのイベントの開催を躊躇している方を後押しするように活用例等を発信してはどうか。引き続き、多くの団体が活用出来るように周知することが必要である。

学校給食課所管事業

《地産地消の推進》

県や市の事業を活用して、熊本県産・天草産の食材を学校給食として提供できている。課題を解決するための予算確保や食材の仕入れ等については、関係機関と連携し、引き続き地産地消を推進していただきたい。

《学校給食施設整備事業》

施設や設備の処理能力と供給数にかい離があると、作業自体に手間を要しコストが掛かることもある。施設の老朽化への対応も含め、設備についても計画的に見直しを行ってはどうか。児童生徒数の減少を踏まえ、計画的に施設整備をお願いしたい。

《（新）本渡学校給食センター建設事業》

引き続き計画的に着工、運営開始に向けて事業を進めていただきたい。

4 総合評価

望月点検評価員

【教育総務課所管事業】

姉妹都市教育交流事業については、新型コロナウイルスの影響により令和2～3年度の中止が決定せざるを得ない状況となり、事業の実施に大きな影響が出ている。影響の長期化を見据え、交流の機会が途絶えないようインターネットの利用など代替的な事業実施の方法を早い段階で検討する必要がある。

施設整備については、財源に限りはあると思うが、事前に優先順位の決定、計画等を準備し、予算の確保と同時にすぐに対応できるような体制を整え、教育環境の確保をお願いしたい。

【学校教育課所管事業】

語学教育については、新型コロナウイルスの影響で外国人講師（ALT等）の確保や京都大学の外国人学生との対面での事業実施が困難となり、予想以上の影響が出てきている。今後は状況に合わせて生徒の興味関心を惹きつけるようICT等を活用し、様々な試みを通じた能力の向上・育成が必要である。

【生涯学習課所管事業】

多様なニーズに対し、柔軟な対応を通じて事業に取り組まれていることが読み取れる。制限のある状況の中で、参加したくても参加できないような潜在的なニーズもまだ数多く存在すると考えられるため、引き続き市民のための学習環境向上に努めていただきたい。

【学校給食課所管事業】

学校給食施設の改修については、引き続き計画的に進めていただきたい。また、地産地消については、予算や食材調達の面で難しい部分も多いと思うが、天草の食材を幅広く活用する形で進めていただければと考えている。

◎全体的意見・要望等

新型コロナウイルスの影響により、多くの事業で影響が出ていることが窺える。その半面で、この状況が2年目を迎え、長期的な影響を踏まえた対応が求められている。

教育環境においては、ICTの活用が積極的に進められている中で、様々な事業の展開においてもICTを有効に活用した実施が必要とされている。この状況を機に、情報の発信やニーズの獲得も含めた多様な事業の実施方法を模索することが、今後さらに求められていくと考える。それに合わせて、学校教育における教職員だけでなく、事業をする上で市の職員の知識や技術向上も進めていくことが重要である。子どもたちや市民に対する事業の提供だけではなく、運営するスタッフ側のサポートも含めて、より充実した展開を期待している。

人材不足や財源の問題など、物理的に実現が難しい事業内容も今後さらに増えてくる可能性があるが、実現が出来ないことをそのまま受け入れるのではなく、限りある資源を有効に活用しながら、常に新しい発想で事業に取り組む姿勢を忘れずに引き続き取り組んでいただきたい。

これまでの職員の方々の努力に敬意を表しつつ、今度も変化の激しい状況に柔軟に対応しながら、天草の特徴を最大限に生かした事業展開を期待している。

松本点検評価員

【教育総務課所管事業】

教育現場の環境整備は大変重要である。深刻な児童生徒数の減少により、常に学校規模の適正化を考えなくてはならない状況が続いている。事業実施のためには高額な予算を必要とするため、国からの予算が確保できなければ実施が難しいなど、予算面での課題が大きい。国及び県の動向を見極めながら計画的に事業を検討していただきたい。

【学校教育課所管事業】

発達障害や不登校の増加、小学校からの外国語科やグローバルな人材育成への対応、学力向上など、事業内容は年々複雑になるばかりで、限られた時間の中でいかに事業を整理して効果を出していくのが求められると考える。求められるものが限りなくとも、課題解決の中で効率化や創意工夫の方法などを見つけていくようお願いしたい。

オリンピックをはじめ、様々な分野での若者の活躍を見ると、人材育成において学校教育には時代に合わせた変化が必要なのだとことを実感する。天草の未来を拓く子どもたちのために、教職員の方々の力を発揮していただきたい。

【生涯学習課所管事業】

新型コロナウイルスの影響で実施できない事業が多くあったが、昨年度の評価を見直し、努力・工夫されてきたことが良く分かった。市民に様々な情報を提供する方法は、インターネットを使用したWEB開催などで広がりを見せ、事業の様子をパネル展等で周知するなど、時代に合わせた事業展開がなされてきていると感じた。

多様性という幅広い要求がある現在、事業を計画・実施していくにあたり細かい部分にまで配慮を必要とし、その対応は困難なことも多いと思うが、これからも市民の笑顔のために尽力いただきたい。

【学校給食課所管事業】

児童生徒数が減少する中で、現存する給食施設の器具や調理数の適正化、地産地消のための予算内での地元食材の確保の問題等、改善が難しい中で工夫しながら目標に向かい努力していることが見える。

◎全体的意見・要望等

新型コロナウイルスや自然災害等、世界はめまぐるしく変化し、安定した生活は脅かされ続けている。天草も同様の状況で、教育委員会での事業実施も変化に合わせて瞬時に対応・判断することが必要とされる。誰も経験したことのない事項でも、公的機関においてはできないでは済まされず、間違えも許されない雰囲気がある。だからこそ、先を見越す思考力、判断力、ITと人間力の調和が必要とされるように思う。

開催に賛否はあったが、東京オリンピックが開催された。各競技における高い技術と強い精神力、集中力、グローバルな世界での挑戦を今の若者に見ると、日本の将来も明るく思えた。これは、オリンピックに限らず、あらゆる分野での活躍にも見て取れる。「自分が修得したいこと、好きなことを明確にし、チャレンジしてきた」という選手のコメントを聞いたとき、教育の分野では「めあて」がいかに重要か分かる気がした。

時代は移り変わり、考えが多様化しても、基本となる人間育成は、教育力、礼儀、文化の伝承、日本の食、コミュニティなど人との交流からつくられるように思う。教育委員会

での事業は、そういった繋ぐべきものの継承事業であり、評価・改善をしながら未来に向けて前進していただきたい。

V 今後の方向性

- (1) 点検評価員の意見を真摯に受け止め、課を跨いで事業の統合ができるものがあれば、十分検討・協議を行い、今後の教育行政の運営に反映させる。
- (2) 点検評価の結果に基づき、事務事業の今後の取組みの方向性等の見直しを行い、次年度の予算に反映させる。

令和3年度 点検評価事業一覧

政 策 (基本方針)	施策計画	整理 番号	事務事業名	所管課
学校教育の充実	学力の向上	1	学習指導補助事業	学校教育課
		2	読書活動支援事業	
		3	外国語科推進事業	
		4	グローバル人材育成事業	
		5	総合的な学習活動支援事業	
		6	離島高校生修学費支援事業	教育総務課
		7	姉妹都市教育交流事業	
	心の教育の充実	8	心の教室相談事業	学校教育課
		9	適応指導教室設置事業	
	特別支援教育の充実	10	天草市特別支援教育総合推進事業	学校教育課
		11	教育相談事業	
	教職員の資質の向上	12	市指定教育研究推進校補助金	学校教育課
	学校・家庭・地域との連携	13	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み	
	教育を支える 環境づくりの推進	14	小学校施設大規模改造事業	教育総務課
		15	中学校施設大規模改造事業	

令和3年度 点検評価事業一覧

政 策 (基本方針)	施策計画	整理 番号	事務事業名	所管課
学校教育の充実	教育を支える 環境づくりの推進	16	小中学校 I C T 整備事業	学校教育課
	学校給食における 食の安全と食文化の推進	17	地産地消の推進	学校給食課
		18	学校給食施設整備事業	
		19	(新) 本渡学校給食センター建設事業	
生涯学習の充実	生涯学習の推進	20	成人式	生涯学習課
		21	移動図書館事業	
		22	読書活動推進事業	
		23	生涯学習推進事業	
		24	青少年健全育成事業	
		25	地域と学校の連携・体制構築事業	

点検評価調書		整理番号	1				
事業名	学習指導補助事業			担当課係名	学校教育課 教務2係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>●目的 小学校及び中学校においてティーム・ティーチング等きめ細やかな指導を行うことにより、児童生徒の発達段階に応じた学校教育の実現を図る。また、日本語指導が必要な外国にルーツを持つ児童生徒に対して、日本語指導員を派遣し、安心した学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>●内容 1. 学習指導補助教員 各学校からの要望に基づき、現地調査を行い、小・中学校の教員免許状または養護教諭の免許状を持つ者を補助教員として配置する。 配置基準 (1) 小学校1学年、2学年に31人以上の学級で特に配慮を要する学校 (2) 発達障害等特に配慮を要する学校 (3) 複式学級がある学校 2. 日本語指導員派遣委託 日本語指導員を派遣できる団体と委託契約を締結し、日本語能力の指導等を行う。</p>						
取組実績	<p>1. 学習指導補助教員 市内の小・中学校に、教員免許を持つ会計年度任用職員を配置した。 ・各学校からの要望数 79人(小学校 58人、中学校 21人) ・現地調査を行った学校 27校(小学校 17校、中学校 10校) ・学習指導補助教員配置数 41人(小学校 30人、中学校 11人) ・配置基準別配置数 (1) 8人 (2) 33人 (3) 0人 計41人 2. 日本語指導員派遣委託 市内の小学校に、日本語指導員を派遣し、日本語能力の指導を行った。 ・指導時間数 82時間 ・対象児童 2人</p>						
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価		
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
104,306 (一般 104,306)		学習指導補助教員の配置数 (年度末時点)	人	目標値	41		
				実績値	41		
		目標値		4	4	4	
		実績値					
成果 自己評価	<p>学習指導補助教員配置については、担任教諭と補助教員とのティーム・ティーチングで、児童生徒一人一人に目が行き届いた細やかな学習指導を行い、学習態度や集団生活等の基礎的事項の定着・向上が図られた。 日本語指導員派遣委託については、指導員を派遣することにより、日本語指導を受ける児童にとって安心した学校生活を送ることができる環境が整備された。</p>					総合評価 (方向性)	
課題	<p>学習指導補助教員配置については、学校の状況を把握し、人材を探しながら配置することができた。しかしながら、学校からの要望は非常に多い。今後も学校運営や学級運営の状況等を見ながら学校の選定、配置を行っていくことが重要である。 日本語指導員派遣委託については、限られた時間のなかで、より効果的に成果があげられるよう、学校や保護者とも連携していかなければならない。</p>					継続	
方向性	<p>支援を必要とする児童生徒は年々多くなっている傾向にあり、学校からの要望も非常に多い。身体的又は心の支援を必要とする児童生徒のために、その要望に応えられるよう、継続することとしたい。</p>						

点検評価調書		整理番号	2					
事業名	読書活動支援事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 学校教育において、児童生徒の豊かな感性を磨き、表現力を高め想像力を豊かにし、情報活用能力を向上させる等効果的な読書活動や多様な学習活動を推進する。</p> <p>●内容 図書館業務の専門的知識を有する学校司書を巡回配置する。</p>							
取組実績	<p>図書館業務の専門的知識を有する学校司書を天草市内の小・中学校（30校）に、2校又は3校に1人の割合で巡回配置した。ただし、学校規模により、本渡南小、本渡北小、亀川小、本渡中については、1人を専属で配置した。</p> <p>・学校司書配置数 17人</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
38,937 (一般 38,937)		学校司書配置数	人	目標値	17			
				実績値	17			
		貸出冊数	冊	目標値	280,000	4	4	4
				実績値	303,440			
成果 自己評価	<p>学校司書を各学校に配置し、学校図書システム等を活用した効果的な読書活動や蔵書の整備、図書室の視覚的な環境整備を行うことで、学校図書館教育の充実が図られ、子ども達の本への関心を高めることができた。 令和2年度をもって全ての小中学校へ学校図書システムを整備することができた。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>学校教育において、効果的な読書活動や多様な学習活動を推進するためには学校司書の存在は欠かせない。図書館業務においては専門的知識を必要とするため、これまでの経験者や学校などと連携を図り、人材確保に努めていくとともに、学校図書システムを活用して事務の効率化を推進していく必要がある。</p>						継続	
方向性	<p>学校における読書活動等のさらなる充実を図るため、今後も継続していくこととしたい。</p>							

点検評価調書		整理番号	3					
事業名	外国語科推進事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 生きた外国語を市内小・中学生に学習させ、国際交流、異文化交流を推進するとともに、市内すべての小学校に英会話教育を実施することで、英語能力の基礎を養い、国際社会に対応できるコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手（ALT）及び英語指導補助教員を市内小・中学校に巡回方式で配置。 ・中学校英語検定チャレンジ事業補助金：中学3年生1人につき1回、受講料の2/3補助。 ・特区として小学校全学年を「外国語科」として取り組む。 (1・2年：20時間、3・4年：35時間、5・6年：70時間) ・ALTや英語指導補助教員の活用や外国語科研究会、外国語科研修により、外国語科の授業の充実を図る。 							
取組実績	<p>○ALT（7人）及び英語指導補助教員（5人）を市内小・中学校に巡回方式で配置。</p> <p>○中学校英語検定チャレンジ事業補助金 682人中228人（33.4%）</p> <p>○全ての小学校で設定されている授業時数を実施 1・2年：20時間、3・4年：35時間、5・6年：70時間</p> <p>○学校教育研究会における「外国語科」部会の実施 【外国語科研究会】 (1) 研究会による授業の指導計画の見直し・作成 【外国語科研修】 (1) 3回実施 <参加者>外国語科担当教員 ①令和2年7月2日（木）小中連携の取組について ②令和2年10月6日（火）「熊本の学び」スタートアップ研修 ③令和3年3月4日（木）実践発表 オンライン形式による研修 (2) アンケート調査の実施（11月）：5項目の中に外国語科の4つのポイントの中の「clear voice」と「eye contact」に関する調査を実施。 (3) 外国語科取り組みの実践報告のとりまとめ</p>							
		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
13,217 (その他 13,217)		英語の好きな児童の割合	%	目標値	95.0			
				実績値				90.0
		中3におけるCEFR(A1)相当 (英検3級程度)以上の割合	%	目標値	50	4	4	3
				実績値	44			
成 果 自己評価	<p>外国語科では、コミュニケーション能力の向上を図ることが目的となっているが、指導者の意識の高まりと指導力の向上を見ることができた。外国語科部会では、来年度の実施がスムーズにできるように、これまでの実践を改善しながら指導計画と小中連携のステップアップ表を作成することができた。</p> <p>外国語科研修では、全ての小・中学校の担当者が参加することで、小中連携が促進されている。連携の内容も授業レベルの具体的な内容のものが増えてきている。</p> <p>児童生徒対象のアンケート結果から、外国語科の4つのポイントの「clear voice」と「eye contact」に関して意識化が図られた。</p>					総合評価 (方向性)		
課 題	<p>英語によるコミュニケーション能力の育成を図ると同時に、グローバル人材の育成へと発展させていく必要がある。</p> <p>また、指標としている「英語の好きな児童の割合」に、コミュニケーション能力の育成に関わるものを加える必要がある。</p>					継続		
方 向 性	<p>平成28年度から特区として、全小学校で「外国語科」を実施しているが、新学習指導要領の全面実施で令和2年度より5・6年生は「外国語科」の教科となり、1～4年生は特区として「外国語科」を継続実施している。今後も天草市全体で外国語科に取り組むことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る必要があるため、継続していくこととした。</p>							

点検評価調書		整理番号	4					
事業名	グローバル人材育成事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 児童生徒が国内大学留学生及びALT（外国語指導助手）との交流（英会話）を通じ、コミュニケーション能力を高め、主体性・積極性を身につけることにより、グローバル人材として必要な資質の育成を図る。</p> <p>●内容 「天草English Day」や「学校訪問」を開催し、互いの文化や言葉の違いを理解し合う。プログラム中のコミュニケーションは、原則として英語を使用する。</p>							
取組実績	小中学校の児童生徒と、国内大学留学生及びALTとの交流（英会話）事業として、天草English Day、学校訪問の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されることから、京都大学経営管理大学院と協議し、令和2年度は中止することとした。							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
0 (一般0)		本事業を楽しんでいる 児童の割合	%	目標値	90.0			
				実績値	—			
		目標値		4	4	—		
		実績値						
成果 自己評価	天草English Dayに参加した児童生徒のアンケート結果では、毎年90%を超える割合で楽しかったとの回答がある。様々な国の外国人とふれあったり、英語で自己紹介を行うことで、児童生徒の外国語に対する興味・関心の向上、コミュニケーション能力の育成を図っている。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、開催を見合わせた。					総合評価 (方向性)		
課題	これまで5年にわたって天草English Dayや学校訪問を行い、参加した子ども達に興味・関心を持ってもらうなど成果をあげることができた。 今後は、京都大学大学院留学生の能力が生かされる事業とするため、大学や関係機関と連携し、引き続き協議していく必要がある。					継続		
方向性	天草市と京都大学経営管理大学院とは二地域就労促進事業で包括協定を結んでおり、今後もグローバルな人材を育成するため、政策企画課等とも協議し、継続していくこととしたい。							

点検評価調書		整理番号	5					
事業名	総合的な学習活動支援事業			担当課係名	学校教育課 教務1係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上				
事業目的・内容	<p>●目的 児童生徒の学習の場を市内全域に広げ、天草の伝統・文化・自然・歴史等とふれあい、体験活動を通して自分で考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する力を育むなど「生きる力」を育成する。 また、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に合わせ、構成地域の一つである崎津集落の現地学習を行い、地域の貴重な歴史的遺産について理解を深める。</p> <p>●内容 市内全小・中学校30校で総合的な学習活動の時間における体験学習等の校外活動を行う。</p>							
取組実績	<p>対象校：小学校17校 中学校13校 対象経費：交通費・講師謝礼等</p> <p>【活動事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 社会施設見学、職業講話、茶摘み体験、米作り体験、地域の歴史・伝統・自然体験学習等 ・中学校 職業体験、職業講和、地域の歴史・伝統・自然体験学習等 ・世界遺産学 全小中学校において崎津集落での現地学習を含む年間10時間の学習を実施 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
3,529 (一般 3,529)		実施校数(小・中学校)	校	目標値	30			
				実績値	30			
				目標値		4	4	4
				実績値				
成果 自己評価	<p>新型コロナウイルス感染防止の観点から、施設見学や体験活動、世界遺産学に係る現地学習の実施を行わない選択をした学校があり、代替事業の検討・実施も含め、各学校苦慮していた様子が伺えた。 今後は、オンライン学習を用いた新たな取組について検討を進める一方、各学校と意見交換をする中で、現地学習で得られる知識や経験は、「生きる力」を育成し、児童生徒の郷土愛を醸成する上で必要であるとの認識を再確認することができた。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>各学校においては、資料学習やオンラインによる取組を行うなど、新たな試みも行ったが、刻々と状況が変化する中、時間的な制約もあり、対応に苦慮した。今後については、新型コロナウイルスの感染状況に応じ、オンライン学習等と実地での研修を織り交ぜながら、従前のやり方にとられない方法を模索し、事業効果の向上と安全性の両立を図る。各学校で学習内容が異なることが想定されるため、予算を一律に配分することは困難であるが、各学校のニーズに合わせた予算措置が必要である。</p>						継続	
方向性	<p>総合的な学習の時間において体験学習等の校外活動とオンラインによる学習を併用することで、事業に係る安全性を確保しつつ、事業効果に資する校外活動も計画的に実施し、「生きる力」の育成につなげたい。</p>							

点検評価調書		整理番号	6				
事業名	離島高校生修学費支援事業			担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>①離島高校生修学支援補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的 御所浦地域から高等学校等に通学する生徒の保護者の経済的負担を軽減する。 ●対象者 高等学校等に在学する生徒の保護者で、通学費若しくは下宿費等を負担している者。 ●補助対象経費及び補助額 <ul style="list-style-type: none"> ・御所浦地域から天草市内の高等学校に定期船で通学する場合の定期船定期券代の全額 ・御所浦地域を離れ、高等学校等に通学するために寮若しくはアパート等を利用している場合の住居費 月額10,000円を上限(10,000円未満の場合はその額) <p>②御所浦航路通学利便性強化補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的 御所浦地域から天草高等学校倉岳校に通学する生徒が、朝課外及び部活動等に参加する場合の修学環境の向上を図る。 ●補助内容 定期船が利用できない時間帯に、天草高等学校倉岳校の校長が事前に定めた行事(朝課外・部活動等)において海上タクシーを利用する場合、海上タクシー利用料の全額を補助する。 ●補助対象者 天草高等学校倉岳校御所浦地区保護者会 						
取組実績	<p>①離島高校生修学支援補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ■通学費補助 補助対象生徒数 6名 補助額 784,000円 ■下宿費等補助 補助対象生徒数 48名 補助額 4,783,588円 <p>計5,567,588円</p> <p>②御所浦航路利便性強化補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用日数 185日 利用船舶数 延べ201隻 利用者数 延べ295人 ■補助額 679,000円 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
6,247 (国庫支出金 2,587) (県支出金 1,071) (一般 2,589)	補助対象者数	人	目標値		4	4	4
			実績値	54			
			目標値		4	4	4
			実績値				
成果 自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による休校・休学期間長期化のため、補助変更申請等に多くの事務が発生したが、御所浦支所との連携を図り、適切な申請案内と事務処理を行うことができた。</p> <p>補助要件の一つに市税完納がある。市税滞納のある申請者について、納税課職員との連携により継続的な働きかけを行い、補助申請と市税完納につながることができた。</p>					総合評価 (方向性)	
課題	<p>通学利便性強化補助について、利用者の減少が見受けられる。さらに減少が続く場合には、休校や生徒欠席時のキャンセル対応等を含めて、運航事業者と補助対象者間の連携を要すると思われる。</p>					継続	
方向性	<p>離島振興法及び御所浦振興策による事業であるため、現状のまま継続する。</p>						

点検評価調書		整理番号	7				
事業名	姉妹都市教育交流事業			担当課係名	教育総務課 総務企画係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	国際化の推進	施策計画	国際化に対応した人 づくり	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学力の向上			
事業目的・内容	<p>●目的 本市の姉妹都市であるエンシニータス市（アメリカ合衆国・カリフォルニア州）と中学校生徒の派遣・訪問団受入れを交互に実施することにより、異なる文化や言語を学び、市民生活や学校生活を体験しながら交流を深め、幅広い視野と国際感覚を身につけ、21世紀の郷土を担う心身ともに逞しい青少年育成を図る。</p> <p>●内容 隔年で中学校生徒の派遣、エンシニータス市からの訪問団の受入れを行う。</p> <p>■中学生の派遣 ①ホームステイ ②市長表敬訪問・ジャパンフェスティバル等への参加 ③ロサンゼルス市内観光等</p> <p>■エンシニータス市訪問団の受入れ ①文化交流事業（茶道・華道体験、イルカウォッチング等） ②市内中学校を訪問し交流学習 ③ホームステイ（市民との交流）</p>						
取組実績	<p>令和2年度はエンシニータス市から天草市へ4名のホームステイを受入れ、交流学习等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限等のため、事業を中止した。</p> <p>■協議の状況 4月の緊急事態宣言及びWHOのパンデミック宣言を受けて協議を開始し、両国の感染状況や入出国制限の状況を踏まえて、令和2年度の事業中止を決定。令和2年12月には、米国及び日本の感染状況等から令和3年度まで事業を中止し、令和4年度の再開を目指すことで協議。</p>						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
0 (一般 0)	派遣者数 (内生徒数)	人	目標値	4 (3)			
			実績値	0			
			目標値				
			実績値				
			4	4	—		
成 果 自己評価	<p>エンシニータス市からの派遣を受け入れ、ホームステイによる市民交流や市内中学校での交流学习を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行による入出国制限等が実施されたため、事業の中止を決定した。</p> <p>両市の協議により、既に令和3年度の事業中止も決定し、令和4年度の事業再開に向けて協議している。</p> <p>緊急事態下ではあったが、教育交流の目的を達成できなかった。</p>					総合評価 (方向性)	
課 題	<p>中学生等の派遣・受入れであり、今後のコロナ禍の状況を注視し、安全面を最優先にした取組が必要である。</p> <p>姉妹都市教育交流の継続的实施のためにも、令和4年度の再開に向けて、インターネットを利用した交流機会等を検討する必要がある。</p>					継続	
方 向 性	<p>令和4年度の事業再開に向けて、安全な派遣・受入れが可能となるように、両市で連携を密に情報交換することとし、継続する。</p>						

点検評価調書		整理番号	8					
事業名	心の教室相談事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	心の教育の充実				
事業目的・内容	<p>●目的 不登校気味の生徒の適応問題や問題行動等に関する生徒の教育相談等を実施し、問題解決につなげる。</p> <p>●内容 中学校の生徒が悩みを気軽に話し、ストレスを少しでも和らげることのできるような環境を提供するため、各中学校の相談室等に「心の教室相談員」を各1人配置する。 ①教育相談 ②相談室登校への対応 ③保護者との連携推進 ※報酬 1時間当たり1,000円 ※週20時間以内</p>							
取組実績	<p>市内中学校全13校に相談員を1人ずつ配置した。</p> <p>【心の教室相談員】 (配置校) 本渡中、本渡東中、稜南中、牛深中、牛深東中、有明中、御所浦中、倉岳中、 栖本中、新和中、五和中、天草中、河浦中 (相談件数) 5,737件</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
9,439 (一般 9,439)		相談件数	件	目標値				
				実績値	5,737			
		相談員設置校数	校	目標値	13	4	4	4
				実績値	13			
成果 自己評価	<p>市内の全中学校に心の教室相談員を配置することができ、生徒の様々な悩み相談等に対して指導・助言を行ったことで、生徒のストレスを和らげたり、心のケアをすることができ、安心感や心のゆとりが生まれた。また、相談の内容によっては、学校関係者や関係機関、専門家等に繋ぎ、解決を図った。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>相談件数も多数あっており、子ども達の悩み等に対する的確なアドバイスができるよう実態等を分析し、相談員の質の向上を図っていくことが重要である。そのためには、情報交換を含めた研修会等を更に充実させ、また、突発的事項等にも対応できるよう、学校との連携を図っていく必要がある。</p>						継続	
方向性	<p>中学校の生徒が悩みを気軽に話し、ストレスを少しでも和らげることのできるような環境を提供する場としての存在意義は非常に大きいため、今後も継続していくこととしたい。</p>							

点検評価調書		整理番号	9					
事業名	適応指導教室設置事業			担当課係名	学校教育課 教務2係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	心の教育の充実				
事業目的・内容	<p>●目的 本渡中学校の分教室として、天草市複合施設「こころす」の一室に適応指導教室「カワセミ学級」を設置し、心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある市内中学校生徒に対して、指導及び援助を行い、「引きこもり」の防止、学校復帰につなげる。</p> <p>●内容 教員免許を有する適応指導教室教員2人を配置し、不登校（気味）の生徒に対し、学習指導、教育相談等を実施する。 開級日：学校授業日のうち月曜日から金曜日 学級時間割：朝の会10：00（学習・給食） 帰りの会 15：00</p>							
取組実績	<p>様々な理由で学校に通学できない生徒の受け皿として、適応指導教室教員2人を配置した。</p> <p>開級日：学校授業日のうち月曜日から金曜日 学級時間割：朝の会10：00（学習・給食） 帰りの会15：00 通級生徒数：10人（うち学校へ復帰した生徒数 0人）</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
4,791 (一般 4,791)		通級生徒数	人	目標値				
				実績値	10	4	4	4
				目標値				
				実績値				
成果 自己評価	<p>心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある市内中学校生徒に対して、学びの場を設け、「引きこもり」の防止、学校復帰を目的とした指導及び援助を行った。令和2年度については、10人の在籍に対し、復帰した生徒はいなかったが、年月をかけたサポートにより、令和3年度から復帰した生徒が2人いる。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>カワセミ学級は本渡中学校の分教室という位置付けであるが、利用者は他の中学校の生徒も増えている。今後も本渡中学校だけでなく他の中学校にも、通級という形で当該学級に通えるカワセミ学級についての周知等を図り、真に支援が必要な不登校（気味）の生徒に対して指導・支援を行っていく必要がある。</p>						継続	
方向性	<p>様々な理由により学校に登校できない子ども達に、教育を受ける機会や社会と繋がる機会を提供する場としての存在意義は非常に大きいため、今後も継続していくこととしたい。</p>							

点検評価調書		整理番号	10					
事業名	天草市特別支援教育総合推進事業			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	特別支援教育の充実				
事業目的・内容	<p>●目的 発達障害を含む障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子ども一人一人に対し、教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援の実施に向けて、特別支援教育の総合的な支援体制の整備及び特別支援教育の充実を図る。</p> <p>●内容 幼稚園・保育所（園）・学校・教育委員会・学識経験者・関係機関・保護者等の関係者からなる天草市特別支援教育連携協議会及び中学校区ごとの地区連携協議会（13区）を設置し、天草市の特別支援教育の総合的な支援体制の整備及び特別支援教育を推進する。</p>							
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地区連携協議会（13区） ・推進会議（1回） ・実務担当者会議（1回） ・リーダーコーディネーター研修（1回） ・天草市コーディネーター研修は、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ・推進会議では、本年度の事業全体の計画、取組について協議・評価を行い、取組の改善につなげた。 ・巡回相談（33件）※対象：学校関係者、保護者 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
148 (一般 148)		校内委員会、研修協力の 回数	回	目標値	20			
				実績値	11			
						4	4	3
成果 自己評価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は、ほとんどの会議、研修会が書面にて実施または中止となったが、これまでの実践が定着し、各地区推進会議、各地区コーディネーター会議はほぼ例年通り実施することができ、幼保小中高連携や関係機関との連携を図ることができた。巡回相談員等を活用し、各地区のニーズにあった講演会や研修会を行い特別支援教育を推進することができた。巡回相談事業については、令和2年度は33件実施でき、学校関係者や保護者に対し特別な支援についての助言を行うことができた。また、対象児童生徒を相談内容に応じて適切に関係機関へとつなぐことができた。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	<p>各園・各校の特別支援教育の推進状況を評価する項目や基準について、これまで目標に上げていた内容が達成されてきているものもあれば、内容が評価しづらく、推進状況が正確に確認できないものもあるので、評価する項目や基準について見直す必要がある。</p> <p>保護者への情報提供や特別支援教育への理解を促す啓発方法を、市全体で共有しながら、保護者とともに特別支援教育を推進していくよう各園・各校に助言していく必要がある。</p>						継続	
方向性	<p>特別支援を必要とする児童生徒は多く、引き続き積極的な取組として継続としたい。</p>							

点検評価調書		整理番号	11			
事業名	教育相談事業			担当課係名	学校教育課 指導係	
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	特別支援教育の充実		
事業目的・内容	<p>●目的 教育の相談員（教育相談カウンセラー、教育指導アドバイザー）を配置し、子育ての悩み・不安・ストレス等を持つ就学前幼児の保護者及び、児童生徒やその保護者を対象にした相談活動を充実させ、保護者の子育てを応援する。</p> <p>●内容 就学前幼児の保護者及び、児童生徒やその保護者を対象にした相談活動（個別相談、研修・講話）及び教育全般への指導・助言（特別支援教育、不登校・いじめ等対策、幼稚園教育）を行う。また、必要に応じて教職員の悩みや学校での諸問題についての相談を実施する。</p>					
取組実績	<p>・教育相談日数60日予定のうち40日、延べ58件の個別相談と3回の研修会・講話の実施を行った。</p> <p>・子育て支援課や健康増進課との連携により活用が増え、就学前の特別支援教育が深まっている。</p> <p>・小中学校からの主な相談内容としては、言葉に関するものであった。</p> <p>・相談後の職員ミーティングで専門的な助言を受けることで、専門性の向上や指導力向上へつながっている。</p> <p>教育相談カウンセラーの相談対象について 【臨床心理士・言語聴覚士】就学前8人、小学生2人、中学生0人 計10人 【臨床心理士】就学前7人 計7人 【言語聴覚士】就学前13人、小学生4人、中学生1人 計18人 【作業療法士】就学前14人、小学生1人、中学生1人 計16人 【臨床心理士】就学前4人、小学生3人 計7人</p>					
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価		
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
2,943 (一般 2,943)	教育相談日数	日	目標値			
			実績値	40		
				4	4	3
成果 自己評価	<p>専門的なアドバイスを受けることができ、保護者や児童・生徒は不安やストレスを和らげ、教師は個々に応じた支援体制を整えることができています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休校や登園自粛、カウンセラーの所属の意向等のために、相談件数は前年度より減少した。</p>				総合評価 (方向性)	
課題	<p>カウンセラーは県下各地に在住のため、その地域の感染状況により、コロナ禍において来訪ができなかった。</p> <p>また、感染防止のためにカウンセリングの件数及び時間が減っていることから移動時間より、カウンセリングの時間が短い相談があり、カウンセラーに負担をかけている面もあると考えられる。</p> <p>天草市内のカウンセラー確保が課題である。</p>				継続	
方向性	<p>特別支援教育の理解を深め、保護者の子育てを応援するためにも天草市内在住のカウンセラーや相談員の活用を行う。</p>					

点検評価調書		整理番号	12				
事業名	市指定教育研究推進校補助金			担当課係名	学校教育課 指導係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教職員の資質の向上			
事業目的・内容	<p>●目的 絶え間ない技術革新とグローバル化が進展する変化の激しい社会に、主体的に対応し、たくましく生きる人材の育成を図るため、学校教育に求められている今日的な課題について学校および地域の実態に即して研究を深める。また、その成果を普及することにより本市教育の振興に資する。</p> <p>●内容 研究推進校を指定し独自の事業を実施する。指定校は5校とする。</p>						
取組実績	<p>指定校（5校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本渡南小学校：「能動的に学び続ける力」を身につけるための実践的研究（上期）～子供が「学びの主体」となる家庭学習の取組の推進～（下期）～子供が「学びの主体」となる授業改善を目指して～ ○本渡中学校：自ら「学び続ける力」の育成 ○稜南中学校：主体的に学習に取り組み、生きる力を身につけた生徒の育成～学び・心・体の基盤づくりを通して～ ○河浦小学校：確かな学力の育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実現～ICTを効果的に活用した授業の実践を通して～ ○河浦中学校：社会で生きて働く資質・能力を身につけた生徒の育成～ICTの効果的な活用をとおして～ 						
	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
1,000 (一般 1,000)	指定校数	校区	目標値	5			
			実績値	5			
			目標値		4	4	4
			実績値				
成 果 自己評価	<p>小学校では令和2年度から新学習指導要領が全面实施となり、中学校でも令和3年度から全面实施となる。その中で改善の方向性として「『主体的・対話的で深い学び』の実現」が示され授業改善が求められ、熊本県においてはその具現化として「熊本の学び」推進プランが示された。研究指定校では、新学習指導要領をもとに「熊本の学び」推進プランで示された授業改善について先進的な取り組みがなされ、天草市の小中学校への普及を図ることができた。</p> <p>令和2年度は、GIGAスクール構想の実現のため、1人1台タブレットの配置を想定した授業改善にも、ICT活用研究推進校に指定した河浦小・河浦中を中心に取り組み、東北大学大学院教授の堀田龍也氏を招致し、河浦中学校においてGIGAスクール構想についての講演を実施した。</p>					総合評価 (方向性)	
課 題	このたびの学習指導要領改訂は、教育の大きな変革が求められており、その具現化を図る「熊本の学び」推進プランを通じた今後の学校教育の在り方については更なる研究・実践が必要である。また、本研究指定校の研究・実践を市内各校へ波及させ、各学校の実態に応じた教育実践へとつなげていきたいと考える。					継続	
方 向 性	専門家の助言を受けながら、学力充実並びにICTを活用した教育について研究を継続していくこととした。						

点検評価調書		整理番号	13					
事業名	コミュニティ・スクールの推進に向けた取組み			担当課係名	学校教育課 指導係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	次世代の担い手を育む		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校・家庭・地域との連携				
事業目的・内容	<p>●目的 学校と保護者や地域の方がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める。</p> <p>●内容 地教育法第47条の6に基づいた取組であり、令和2年度までに、すべての学校で国版学校運営協議会の設置完了する。</p>							
取組実績	<p>・令和2年度末の状況 新たに16校が国版学校運営協議会を設置し、全30校で設置完了した。</p> <p>・地方教育行政の組織及び法律の改正（学校運営協議会の設置の努力義務化）に伴い、教育委員会が指定し、委員を委嘱するコミュニティスクールに全校移行する旨の理解を広げることができた。</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
1,022 (一般 1,022)		設置校数	校	目標値	30			
				実績値	30			
				目標値		4	4	4
				実績値				
成果 自己評価	令和2年度は、すでに設置を終えている14校に加えて、新たに小・中の16校において設置を完了することができ、天草市全30校の設置を完了した。防災、学習指導、行事等の学校運営において、委員の意見等を取り入れて、地域の教育力を生かした特色ある教育活動が行われた。						総合評価 (方向性)	
課題	学校と地域がどのような子供たちを育てていくのか、目標を共有し、一体となって「子供育て」に取り組んでいかなければならない。天草市の全30校に国版学校運営協議会が設置され、地域協働活動推進員も配置されたので、今後、横のつながりを構築し、充実した取組が展開されていくよう、活動の把握や各学校間の情報共有、先進的取組についての啓発等、計画的に進めていく必要がある。						拡充	
方向性	令和2年度にすべての小中学校で国版コミュニティスクールを設置して、今後より一層「地域とともにある学校づくり」を推進するため、地域や関係部署（生涯学習課等）と連携し、事業を拡大する。							

点検評価調書		整理番号	14				
事業名	小学校施設大規模改造事業			担当課係名	教育総務課 施設係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画	教育を支える 環境づくりの推進	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進			
事業目的・内容	学校施設は、児童が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、災害が発生する恐れがあるときや災害発生時には、地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。天草市学校施設個別施設計画に基づき、老朽化した建物について、建物全体を改造する工事を行い、建物の長寿命化及び耐久性を確保し、児童が心地よく学習できるよう教育環境の改善を図る。						
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ●総事業費 46,512千円 ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・測量設計等委託料 2,684千円 (栖本小学校トイレ改修設計業務委託、倉岳小学校スクールバス発着所測量設計業務委託、倉岳小学校グラウンド整備修正設計業務委託、牛深東小学校トイレ改修設備設計修正業務委託 4件) ・使用料及び賃借料 990千円 (本渡北小学校仮設校舎賃借料 1件) ・工事請負費 42,838千円 (牛深東小学校トイレ改修工事(建築、設備、浄化槽)、牛深東小学校土砂撤去工事、牛深東小学校搬出土砂整地工事、牛深東小学校浄化槽廃止工事、亀川小学校屋外整備工事、亀川小学校特別支援教室改修工事、牛深東小中学校スクールバス駐車場整備工事 9件) 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
46,512 (国庫補助金 9,661) (一般 36,851)	整備件数	件	目標値				2
			実績値	2			
	測量設計委託件数	件	目標値	1	4	4	4
			実績値	1			
成果 自己評価	牛深東小学校トイレ改修工事及び牛深東小中学校スクールバス駐車場整備工事、これらに関連する工事等9件を行った。併せて、令和2年度工事の設計1件、令和3年度以降工事予定の測量設計業務委託の4件について実施設計が完了した。 また、本渡北小学校仮設校舎については、児童増加に伴う教室不足が解消できていないため、賃貸借期間延長(令和7年度)の再契約を行った。				総合評価 (方向性)		
課題	国庫補助金を財源とするため、国からの補助採択がなければ計画年度で改修工事を実施することができない。また、補助対象外の大規模改修工事についても、別に財源を確保する必要があるため、容易に事業実施ができない状況にある。				継続		
方向性	天草市学校施設個別施設計画(令和4年～令和13年)及び定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計画的に事業を実施していく必要がある。						

点検評価調書		整理番号	15				
事業名	中学校施設大規模改造事業			担当課係名	教育総務課 施設係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 教育を支える 環境づくりの推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進			
事業目的・内容	学校施設は、生徒が一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、災害が発生する恐れがあるときや災害発生時には、地域住民の避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。天草市学校施設個別施設計画に基づき、老朽化した建物について、建物全体を改造する工事を行い、建物の長寿命化及び耐久性を確保し、生徒が心地よく学習できるよう教育環境の改善を図る。						
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ●総事業費 50,508千円 ●事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・測量設計委託料 2,827千円 (栖本中学校トイレ改修設計業務委託、御所浦中学校トイレ改修設計業務委託、天草中学校放送設備改修設計業務委託 計3件) ・工事請負費 47,681千円 (新和中学校舗装外改修工事、本渡東中学校トイレ改修工事(建築、設備) 計3件) 						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
50,508 (国庫補助金 11,769) (一般 38,739)	整備件数	件	目標値				3
			実績値	3			
	測量設計委託件数	件	目標値	2	4	4	4
			実績値	2			
成果 自己評価	<p>新和中学校舗装外改修工事及び本渡東中学校トイレ改修工事(建築、設備)の3件を行った。</p> <p>また、令和2年度工事の設計1件、令和3年度以降工事予定の測量設計業務委託の2件について実施設計が完了した。</p>				総合評価 (方向性)		
課題	<p>国庫補助金を財源とするため、国からの補助採択がなければ計画年度で改修工事を実施することができない。また、補助対象外の大規模改修工事についても、財源を確保する必要があるため、容易に事業実施ができない状況にある。</p>				継続		
方向性	<p>天草市学校施設個別施設計画(令和4年～令和13年)及び定期点検の結果等を踏まえながら老朽化している施設の状況を把握し、計画的に事業を実施していく必要がある。</p>						

点検評価調書		整理番号	16					
事業名	小中学校 I C T 整備事業			担当課係名	学校教育課 教務 1 係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 教育を支える環境づくりの推進			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	教育を支える環境づくりの推進				
事業目的・内容	<p>●目的 市内の小中学校へ I C T 機器を整備することにより学校における情報化への対応を進め、①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度の3つの観点から児童・生徒の情報活用能力の育成を図る。また、校務の効率化、セキュリティ対策の強化を目的に全教職員へ校務用パソコンを配備し、イントラネットや共有サーバも提供することで情報の共有化を図る。</p> <p>●内容 市内全小・中学校に設置する I C T 機器について、学習指導要領等に対応すべく当該機器の整備を図る。</p>							
取組実績	<p>○ G I G A スクール構想に伴う児童生徒用タブレット端末等の購入 児童生徒が使用するタブレット端末 5,700台の購入、併せて各教室に充電庫を整備した。</p> <p>○ 高速・大容量のネットワーク環境の構築 市内全校において、通信速度を100Mbpsから1Gbpsにする改修を行った。</p> <p>○ 教師用授業支援タブレット端末の配備 使用中の児童生徒用のタブレット端末のうち 600台を教師用授業支援タブレットとして配備替えを行った。</p> <p>○ 校務支援ソフト導入 校務支援ソフトとして、県内シェア最大の鈴木楽器販売(株)「スズキ校務シリーズ」を採用し、令和3年1月からの仮稼働を経て、同年4月より本格運用を行っている。</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
544,988 (国庫支出金 536,659) (基金繰入金 4,838) (一般 3,491)		校務支援ソフト導入校数	校	目標値				30
繰越分 148,261 (国庫支出金 72,769) (市債 74,400) (一般 1,092)				児童生徒用タブレット端末 導入数	台	実績値	30	
						目標値	5,700	4
				実績値	5,700			
成 果 自己評価	<p>児童生徒が情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を身につけることの重要性が高まる中で、I C T 機器を活用した「分かる授業」の実施により、「確かな学力」の育成に貢献している。</p> <p>令和2年度に配備し、令和3年度より本格運用される児童生徒1人1台タブレット端末のスムーズな利用の導入を図るため、I C T 機器を活用した授業の研究を指定校を中心に行うことで、授業構成の土台作りと課題の整理ができた。</p> <p>また、校務に係る負担の解消を図るため、校務支援ソフトを導入した。併せて、令和3年度以降の本格運用を想定し、計画的に導入等に係る研修会を行った。</p>					総合評価 (方向性)		
課 題	<p>国の G I G A スクール構想の推進により急激に変化する I C T 環境に対し、設備整備と人材の両面において、対応できる学校及び市教委の体制を作っていく必要がある。児童生徒の I C T 機器の活用能力の向上や児童生徒が主体的に学ぶ意欲を引き出す授業づくりができるよう、今後も教職員の I C T 機器の操作・活用方法などの研修を引き続き実施する必要がある。</p>					継続		
方 向 性	<p>短期的にはエキスパートである I C T 支援員を導入し、I C T 機器の更なる活用を図る。長期的には、校務用 P C、教師用授業支援タブレット P C、児童生徒用タブレット P C の更新作業が必要となってくることから、関連する I C T 機器の導入も含め、情報政策課及び財政課と協議を進め、更新に係る計画を早期に策定したい。</p>							

点検評価調書		整理番号	17												
事業名	地産地消の推進			担当課係名	学校給食課 管理係										
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 学校給食の充実										
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進											
事業目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心でおいしい給食の提供に努めるとともに地産地消を推進する。 ・天草産・熊本県産の旬の野菜等生産物の購入により、感謝の心を育てたり、地域資源でもある農水産物に興味を持たせ、生産者等の顔が見える給食づくりを目指す。 														
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県「県産牛肉等学校給食提供推進事業」と天草市の「活力ある天草の水産業づくり事業」を活用し、県産牛肉、天草大王、養殖マダイ・養殖ブリ・養殖マアジ・養殖クルマエビを市内全小中学校及び公立幼稚園の給食に提供。また「活力ある天草の水産業づくり事業」では小中学校25校で出前講座を行った。 ・毎月19日を「食育の日」として設定し、に天草産の特産物や郷土料理を取り入れた献立を各センターで実施した。 ・新型コロナウイルスの影響で出前講座を開催する機会は減少したが、各センターで給食だより等を工夫して、地産地消の取組について周知を行った。 <div style="text-align: center;"> <p>地産地消率の推移</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>地産地消率 (%)</th> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>24.1</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>24.6</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>22.9</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>23.1</td> </tr> </table> </div>					年度	地産地消率 (%)	平成29年度	24.1	平成30年度	24.6	令和元年度	22.9	令和2年度	23.1
年度	地産地消率 (%)														
平成29年度	24.1														
平成30年度	24.6														
令和元年度	22.9														
令和2年度	23.1														
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価											
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況									
-	品目ベースの地産地消率 (天草産食材の品目)	%	目標値 令和4年度 30.0 実績値 23.1												
			目標値	4	4	3									
			実績値												
成 果 自己評価	各センターで、地場産品を給食に取り入れるための様々な工夫を行った。また、県の事業等を活用し、県産農畜水産物を学校給食で提供したが、目標値には至らなかった。学校給食の地産地消率の向上のため、経済部と協議し課題等について確認を行った。				総合評価 (方向性)										
課 題	県の事業等を活用し、県産牛肉、天草大王を学校給食で提供したが、生産・流通関係者と給食センターのニーズの違い、納品ルート等で課題が残った。限られた予算で、地産地消率を向上することは困難であるが、各センターの食材の使用量等を把握し、関係機関と連携しながら食材の供給システムの構築、拡大に取り組む必要がある。				継続										
方 向 性	地元の食材を利用した献立の内容を充実して継続していきたい。														

点検評価調書		整理番号	18						
事業名	学校給食施設整備事業			担当課係名	学校給食課 管理係				
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 学校給食の充実				
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進					
事業目的・内容	各給食センターの給食設備を「天草市学校給食基本計画」に基づき整備・更新し、安全・安心 でおいしい給食を提供する。								
	令和2年4月1日 現在								
		給食センター名	地区	建築年月	経過年数	幼稚園	小学校	中学校	食数
		本渡学校給食センター	本渡	昭和50年3月	45	3	7	3	3,871
		牛深学校給食センター	牛深・河浦	平成20年3月	12	/	3	3	986
		御所浦学校給食センター	御所浦	昭和62年3月	33	/	1	1	155
		栖本学校給食センター	倉岳・栖本	平成14年12月	17	/	2	2	342
		新和学校給食センター	新和	昭和43年3月	52	/	1	1	189
		五和学校給食センター	五和	平成11年2月	21	/	1	1	485
		天草学校給食センター	天草	昭和56年3月	39	/	1	1	144
	有明小学校調理場	有明	平成29年11月	2	/	1	/	201	
	有明中学校調理場		平成17年3月	15	/	/	1	108	
	合計				3	17	13	6,481	
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 設計委託 418,000円 栖本 ボイラー改修設計 給食設備の更新等 1,259,665円 本渡 冷蔵庫1台、栖本 冷蔵庫1台、有明中 テーブル形冷凍庫1台、他5件 施設の改修工事 1,783,925円 天草 フード修理、他3件 								
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価					
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況		
3,462 (一般 3,462)	対象事業数	件	目標値	3					
			実績値	4					
			目標値		4	4	4		
			実績値						
成果 自己評価	老朽化した給食設備については、安全・安心な給食を安定的に提供するため、改修等に取り組むことができた。					総合評価 (方向性)			
課題	本渡、新和を除く3施設（御所浦、五和、天草）が建築後20年以上経過し、老朽化が進んでいる。また、建設時の処理能力と現在の供給数に乖離があるため、厨房機器を適正規模に見直すなど検討が必要である。					継続			
方向性	老朽化した給食設備及び施設について、処理能力やランニングコストを検討しながら計画的に更新していきたい。								

点検評価調書		整理番号	19					
事業名	(新) 本渡学校給食センター建設事業			担当課係名	学校給食課 管理係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	学校教育の充実	施策計画 学校給食の充実			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	学校教育の充実	施策 計画	学校給食における食の安全と食文化の推進				
事業目的・内容	<p>本渡学校給食センターは、建築後45年経過し老朽化が著しいため、移転改築し、建築後52年経過し老朽化が著しい新和学校給食センターと統合する。</p> <p>(スケジュール)</p> <p>平成30年度 基本計画、用地取得 令和元年度 基本設計、地質調査 令和元～2年度 実施設計 令和2～4年度 センター建設(鉄骨造2階建 2,510.40㎡) 厨房機器設置 令和4年度 2学期より給食運用開始予定</p>							
取組実績	実施設計を完了し、建設工事費(建築・電気設備・機械設備)及び厨房機器について契約の締結を行った。							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
14,159 (一般 1,059) (市債 13,100)		基本・実施設計進捗	%	目標値	100			
				実績値	100			
						4	4	3
成果 自己評価	<p>実施設計業務を完了し、補助金の内示を受けたため、建設工事費及び厨房機器購入費について令和2年12月議会で予算を計上し、令和3年3月議会で工事請負契約の締結(建築工事、電気設備工事、機械設備工事)、財産の取得(厨房機器)について議会の承認を得て、契約を締結することが出来た。</p> <p>契約の締結が3月議会となったため、令和2年度分の建設工事費については、全額繰越となった。</p>						総合評価 (方向性)	
課題	令和4年9月からの供用開始に向けて、関係各課と連携して事業を進めて行く必要がある。						拡充	
方向性	令和4年9月からの供用開始に向けて事業を推進したい。							

点検評価調書		整理番号	20					
事業名	成人式			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進			
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進				
事業目的・内容	<p>●目的 人生の節目を迎えた新成人が大人としての生き方を考え、決意する場、友人と再会しその喜びに浸るとともに、今後の生き方を語り合い励ましあう場、家族が子ども・孫の成長を実感し新成人と共に喜びを分かち合うとともに、新成人が家族への感謝を感じる場とする。</p> <p>●内容 ○開催方法等 各地区ごとに開催 ・8月16日：牛深 ・1月3日：本渡、有明、倉岳、栖本、天草、河浦 ・1月4日：御所浦、新和、五和 ○式典の実施 アトラクションとして各地区の郷土芸能披露や成人者自身が成人としての決意を発表。 ○終了後記念撮影を行い、記念品として写真を贈呈する。</p>							
取組実績	<p>○令和3年成人式については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、牛深地区を1月に変更。令和2年12月18日「新型コロナウイルス感染レベル5」など帰省自粛の集中的な感染防止対策の要請を受けて全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、感染防止を第一に考え、令和3年1月開催の天草市成人式（全地区）を中止とした。</p> <p>・新成人者には、成人式当日に配布する予定であった冊子（市長・議長、恩師等のお祝いのメッセージ掲載）を対象者全員に送付した。 ・令和3年成人者予定数 832人</p>							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度		上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
114 (一般 114)		出席率	%	目標値	85.0			
				実績値	0			
				目標値		4	4	3
				実績値				
成果 自己評価	令和2年度（令和3年1月）成人式については、コロナ禍の影響により全地区式典を中止としたが、成人式当日に配布する予定であった冊子（市長・議長、恩師等のお祝いのメッセージ掲載）を対象者全員に送付した。						総合評価 (方向性)	
課題	今後は、新成人者の数も減少する傾向にあるため、成人式のあり方についても、見直しが必要である。また、コロナ禍の影響による実施方法についても見直し検討する必要がある。						見直して継続	
方向性	令和元年度に成年年齢の引き下げ（18歳）と併せて成人式のあり方について方針を決定している。 今後は、新成人者の数も減少傾向にあるため、令和6年度までにあり方の協議をあらためて行うこととしているが、より魅力のある成人式となるよう、新成人とともに、式典のあり方についても検討していく。							

点検評価調書		整理番号	21					
事業名	移動図書館事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係			
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進		施策計画 生涯学習の推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進				
事業目的・内容	<p>●目的 図書館のない地域、図書館から遠い地域に住む市民のため、移動図書館車で地域を巡回し、図書館サービスを提供することで、市民の読書活動を推進する。</p> <p>●内容 移動図書館車3台で天草全域に実施している。 ①中央図書館…本渡・有明・倉岳・栖本・新和・五和地区 53箇所実施（車両：H25年度購入） ②御所浦図書館…横浦島を含む御所浦全域 29箇所実施（車両：H23年度天草町より移管） ③河浦図書館…牛深・天草・河浦地区 65箇所実施（車両：H23年度経済対策により購入）</p>							
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問箇所：147箇所 ・貸出冊数：93,033冊 ・利用者数：8,270人 							
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
3,612 (一般 3,612)		貸出冊数	冊	目標値				99,000
				実績値	93,033			
		利用者数	人	目標値	10,000	4	4	3
				実績値	8,270			
成果 自己評価	<p>コロナ禍の影響により休館や移動図書館の休止期間があったため、貸出冊数及び利用者数は目標値に及ばなかったが、図書資料の消毒など感染対策を徹底したうえでの再開後は、図書館だよりやホームページ・SNSなどで周知を行い、ほぼ通常どおりの利用状況となった。また、小学校・幼稚園・児童館等の配本場所に定期的に巡回することで、学校図書館に所蔵していない図書と出会う機会ができ、子どもの読書活動の推進につながった。</p>					総合評価 (方向性)		
課題	<p>移動図書館の有効活用については、地域や利用者のニーズを把握するため継続的にアンケート調査などを行う必要がある。全域に行くことは困難であるため、第一段階として、現在の利用者を対象に調査を実施していく必要がある。</p>					継続		
方向性	<p>利用者に向けた読書の啓発を行うため、図書館だよりなどを移動図書館の際にも配布するなど、資料情報を周知し、読書への興味を深めてもらうことにより利用者増につなげる。また、巡回時に要望等の聞き取りを行うなどして、より利用しやすい移動図書館を目指す。</p>							

点検評価調書		整理番号	22				
事業名	読書活動推進事業			担当課係名	生涯学習課 中央図書館庶務係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進			
事業目的・内容	<p>●目的 市民に読書の楽しさを理解してもらい、意欲的に読書に親しんでもらう機会を提供することで、市民の読書活動の推進を図る。</p> <p>●内容 天草市立図書館読書イベント、読み聞かせボランティア交流会、読み聞かせボランティア講座、古文書学習会を実施、童話発表大会、アマクサ・ライブラリー・カフェの実施。</p>						
取組実績	<p>○天草市立図書館読書イベント…フリーアナウンサー 村上美香さん講演会 (開催数1回 参加者数60人)</p> <p>○読み聞かせボランティア交流会…ボランティアの交流とスキルアップを目的に開催 (開催数1回 参加者数48人)</p> <p>○読み聞かせボランティア講座…ボランティアスキルアップのための講座 (開催数4回 参加者数45人)</p> <p>○古文書学習会…天草の古文書を解説する勉強会 (開催数9回 参加者数66人)</p> <p>○童話発表大会、アマクサ・ライブラリー・カフェ…コロナ禍の影響により中止した。</p>						
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価			
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況	
265 (一般 265)	図書館貸出冊数	冊	目標値				467,000
			実績値	389,864			
	図書館利用者数 (※来館者数)	人	目標値	100,000	4	4	4
			実績値	113,615			
成果 自己評価	読書活動推進の一つであるボランティア育成に取り組み、一定した参加者の確保につながった。コロナ禍の影響による休館や利用時間の制限により、貸出冊数は目標値には及ばなかったが、中央図書館の複合施設こらす供用開始により、全図書館合わせての利用者数(来館者数)は目標値を上回った。また、関係部署の事業強化月間等と併せて、関連図書の展示などを行うことができた。				総合評価 (方向性)		
課題	中央図書館については、複合施設こらす供用開始により新規登録者も増加し、中高生などこれまでに利用が少なかった年齢層の利用冊数も1.8倍程度増えた。しかしながら、全図書館での貸出冊数はコロナ禍の影響もあり目標値には及ばなかった。利用者増につなげるための継続した広報活動や、事業の開催時の参加者向けアンケートを行い、ニーズを把握する必要がある。				見直して継続		
方向性	読書活動推進のためのボランティア育成については、継続して取組んでいく。また、生涯学習の拠点として幅広い年齢層に対応できるよう一般・児童コーナーにおいて図書の展示ブースを設置しており、今後も利用者が興味を持つようなテーマを研究し、わかりやすい表示や手に取りやすい工夫をしていき、利用者数の増加に繋げる。併せて、相談業務(レファレンス)の充実を図るとともに読書活動を推進していく。						

点検評価調書		整理番号	23			
事業名	生涯学習推進事業			担当課係名	生涯学習課 公民館係	
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進	
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進		
事業目的・内容	<p>●目的 生涯学習の充実を図るため、市民に多様な学習機会の提供を行うとともに、学習情報の提供や学習相談の充実等の支援を行う。</p> <p>●内容 ・市民全体に学習の機会を提供するため、各地区公民館単位で人権学習、家庭教育などの全体講座の開催。 ・学習の機会が得にくい市民に対して、各地区に講師等を派遣し、健康づくり、消費生活などの地域講座の開催。 ・市民のニーズや要望に対して、地域の人材を生かした生涯学習人材バンクを活用した講座の開催。 ・ホームページ・ケーブルテレビ・みつばちラジオのほか紙媒体を活用し、講座情報を発信。 ・講座受講者が学んだ成果を発表する場の提供。</p>					
取組実績	<p>○全体講座の開催(市民全体に対し、公民館単位で学習の機会の提供) 開催数55回 参加延人数2,500人</p> <p>○地域講座の開催(比較的学習の機会が得にくい市民が参加しやすいよう身近な場所で学習の機会を提供) 開催数204回 参加延人数3,630人</p> <p>○市民の学習ニーズや要望に対応した講座の開催(生涯学習人材バンクを活用した講座の開催) 開催数7回 参加延人数218人</p> <p>○中央生涯学習センター講座の開催 開催数80回 参加人数1,319人 講座開催数計346回。多様な学習の機会を述べ7,667人の市民の方に提供することができた。</p>					
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評 価		
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
3,851 (一般 3,851)	講座開催数	回	目標値 400 実績値 346			
	参加者延べ人数	人	目標値 15,000 実績値 7,667	4	4	3
成果 自己評価	<p>コロナ禍の影響により、予定していた講座の中止や参加者数を制限したことなど、例年に比べ講座の開催や参加者数が伸びなかった。 しかし、今後の講座の進め方や内容等を検討する機会となり、一堂に会して行う形式の講座から、参加する時間を分散した作品展示による講座や自由な時間に参加できる絵手紙講座などを実施し、学習機会の提供方法を見直すことができた。</p>				総合評価 (方向性)	
課 題	<p>コロナ禍の影響により講座や参加者数が目標値に及ばなかった。今後の講座の進め方や学習の機会、学習情報の発信の方法などを見直し、市民の学習環境の充実につなげるための工夫が必要である。また、幅広い年齢層や参加者のニーズに合わせた講座を開催できるよう、目的に沿った市民ニーズを把握し、これまで開催していないジャンルの講座の開催に取り組んでいく必要がある。</p>				見直して継続	
方 向 性	<p>本渡地区公民館や各地区公民館の講座及び、中央生涯学習センター講座の効果的な学習内容、講座の進め方、学習情報の発信の方法などを見直し、市民の学習環境の充実につなげるため工夫していく。また、公民館の全体講座として青少年育成講座を開催し、学習機会を提供していく。</p>					

点検評価調査		整理番号	24				
事業名	青少年健全育成事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係		
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進		
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進			
事業目的・内容	<p>●目的 青少年の健やかな成長を支援するため、自然とふれあいをはじめとする様々な体験活動や青少年同士の交流等の多様な活動の機会を提供するとともに、学校教育、社会教育などすべての教育力の向上を図ることを目的とする。また、社会を明るくする運動は、全国的な運動であり、青少年の非行防止を目的としている。</p> <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成事業補助金 青少年の各種体験活動及び交流活動を実施する団体に対する補助（総事業費の1/2補助） 居住地を限定して実施する事業 上限15万円 2団体 市内全域を対象とする事業 上限20万円 4団体 社会を明るくする運動の開催 保護司会と連携し、青少年の非行防止のため広報、啓発活動の実施。標語、作文の表彰、青少年育成活動の発表、講演等 青少年健全育成に関する事業及び青少年健全育成・教育推進フォーラムの開催 教育活動の事例発表、講演会等 天草市青少年育成協議会と連携し、防犯パトロールや広報活動の実施 						
取組実績	<p>○青少年健全育成事業補助金実施団体</p> <ul style="list-style-type: none"> NPO法人天草みどりの村「2020 夏あまくさ自然学校」 補助金額200,000円、参加者数 27人 一般社団法人天草本渡青年会議所「うちで学ぶ！自由研究」 補助金額135,000円、オンライン講座：視聴回数1,544回 <p>○“社会を明るくする運動”の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護司会と連携し、青少年の非行防止のため広報、啓発活動の実施。 ※“社会を明るくする運動”作文、標語の表彰式、講演会等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、“社会を明るくする運動”内閣総理大臣メッセージ伝達式のみ開催した。 作文、標語応募数 作文148点、標語897点（合計1,045点） <p>○青少年健全育成に関する事業及び青少年健全育成・教育推進フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響により中止とした。 						
決算額		指標：成果、活動の対象となるもの			評 価		
令和2年度(千円)		指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況
451 (一般 451)		社会を明るくする運動 標語、作文応募数	点	目標値	1,000		
				実績値	1,045		
		補助金申請団体数	団体	目標値	6	4	4
				実績値	2		
成 果 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成補助金については、地域の伝統的事業の体験や学習によるふるさとの魅力、良さを再発見できる機会として、大きな成果につながった。 “社会を明るくする運動”については、作文や標語の募集を行い、保護司会と連携して啓発活動に取り組み、内閣総理大臣メッセージ伝達式のみ実施した。 					総合評価 (方向性)	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成補助金については、補助制度の周知方法について、学校や青少年健全育成団体、子ども会など、新規の団体に活用してもらうため周知方法を工夫する必要がある。 “社会を明るくする運動”及び青少年健全育成・教育推進フォーラムについては事業の内容等を工夫し実施する必要がある。 					見直して継続	
方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成事業補助金については、市内の青少年育成活動がさらに拡充するように、多くの市民団体に実施を呼びかけていく。 “社会を明るくする運動”については、継続して作文や標語の募集を行い、表彰式や講演会等については、関係団体と協議を行い内容等見直していく。 青少年健全育成・教育推進フォーラムについては、参加した市民、教育関係者にとって、それぞれの活動の参考となり、教育力を高める契機に繋がるよう内容等を検討していく。 						

点検評価調書		整理番号	25																	
事業名	地域と学校の連携・協働体制構築事業			担当課係名	生涯学習課 生涯学習推進係															
第2次総合計画 施策体系区分	経営方針	未来を拓く人を育む まちづくり	政策	生涯学習の推進	施策計画 生涯学習の推進															
教育振興 基本計画	政策 (基本方針)	生涯学習の充実	施策 計画	生涯学習の推進																
事業目的・内容	<p>●目的 地域学校協働活動推進員を配置し地域と学校の連携・協働による地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動を推進することで、地域の未来を担う子どもたち（青少年）を育成する。また、学校・地域の実情に応じた家庭教育に関する支援体制づくりや、放課後等における学習支援活動等の機会を提供することで教育力の向上を図る。</p> <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動 地域学校協働活動推進員を全地域に配置（19地域19人）し、地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもの成長を支え、地域創生する活動を支援する。 ・放課後子ども教室 地域コーディネーターが中心となり地域住民と学校が連携し、放課後等の子どもたちの居場所を確保するとともに交流活動や学習機会を提供する。 ・家庭教育支援事業 社会教育指導員や外部講師が就学時健診、PTA研修会等保護者が集まる場所に出向いて、家庭教育講座を開催する。 																			
取組実績	<p>○地域学校協働活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進員の配置を10地域から18地域に広げ配置を行った。 ・「地域学校協働活動パネル展」を実施し地域住民に周知を行った。 <p>○放課後子ども教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施校 2校 有明小学校（つわの花）、御所浦小学校 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>利用者数</th> <th>開催日数</th> <th>コーディネーター</th> <th>サポーター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有明小学校</td> <td>179人</td> <td>60日</td> <td>1人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>御所浦小学校</td> <td>341人</td> <td>21日</td> <td>1人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○家庭教育支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校の就学時健診、PTA行事の際に、家庭教育に関する講座の開催 実施回数 42回 参加者数 948人 					学校名	利用者数	開催日数	コーディネーター	サポーター	有明小学校	179人	60日	1人	7人	御所浦小学校	341人	21日	1人	9人
学校名	利用者数	開催日数	コーディネーター	サポーター																
有明小学校	179人	60日	1人	7人																
御所浦小学校	341人	21日	1人	9人																
決算額	指標：成果、活動の対象となるもの			評価																
令和2年度(千円)	指標名	単位	令和2年度	上位の施策 (目標)への 貢献	市関与の 必要性	達成状況														
5,214 (一般 2,092)	地域学校協働活動推進員 配置数	人	目標値				19													
			実績値	18																
	家庭教育講座回数	回	目標値	200	4	4	3													
			実績値	42																
成果 自己評価	<p>・地域学校協働活動では、推進委員を18地域（28校）に配置し地域と学校の連携による取組みが各地域で広まってきている。また、地域学校協働活動パネル展を開催し市民に周知を行った。</p> <p>・放課後子ども教室については、地域コーディネーターが中心となり交流活動や学習機会を提供することができた。</p> <p>・家庭教育支援事業については、コロナ禍の影響により、ほとんどの事業が思うように開催できなかったが、社会教育指導員によるコロナ禍における親子の関わりについて冊子を作成し幼保、各小中学校等を通じて情報提供を行うことができた。</p>				総合評価 (方向性)															
課題	<p>地域資源や地域人材ボランティアを生かした、地域学校協働活動や放課後子ども教室の充実を図り、活動及び人材ボランティア一覧表を活用した継続的な事業体制を整える必要がある。</p> <p>保護者等に向けた家庭教育支援の把握に努めるため、関係部署や関係機関と連携し、参加者の声を聞き、求められる講座を企画する必要がある。</p>				継続															
方向性	<p>将来を担う子どもたちの育成及び家庭や地域の教育力向上のため、地域と学校が相互に連携・協働して行う「地域学校協働活動」や「放課後子ども教室」の取組を進めるとともに、各関係機関及び関係部署と連携した「親の学び」プログラムの開催など家庭教育支援の充実を図っていく。</p>																			